

## 力を出し切った体育大会

天気はやはり心配無用でした。文化部や日ごろ体育館で活動している生徒など、すっかり日焼けして帰宅したのではないのでしょうか。土曜開催で心配されたことも終わってみれば大きな混乱はなく、生徒はもとより保護者の皆さんの素晴らしい鑑賞マナーが大会を成功に導いたと、感謝申し上げます。

学年競技の騎馬戦やマスゲームに関しては以前の号でも様子をお伝えしていた通り、生徒たちは本番でもしっかり集中して演技を成功させました。そしていつもながら来賓や保護者の皆さんに好評だったのは最初の「入場行進」であり「ラジオ体操」です。こう言うと生徒たちは意外に思うかもしれませんが、学年演技やマスゲームといった「目玉」演技よりも、何気ない集団行動の質の高さが観客の感動を誘うのです。特別なものに力を注ぐのは当たり前。ある意味平凡な行進や体操に真剣に取り組めることこそが尊いのだと思います。



難易度の高い、成功すればカッコいい演技では自然と生徒のモチベーションも上がるのですが、歩くだけで何の得点にもつながらないのに必死に演技するのは究極の「カッコよさ」ではないのでしょうか。演技する者も観る者もそのところがよく分かっているという点で立花中の体育大会は素晴らしいのだと思います。

忙しい中、1週間がかりで仕上げた学級旗（のぼり）。騎馬戦始め、色々な場面で効果的に使われていました。今後はクラスのインテリアになります。



四文字熟語ののぼりを手に生徒たちを鼓舞する担任5人衆。優勝目指して「虎視眈々」



「出陣」直前の実行委員たち

午後のメインはマスゲーム。例年と違って今年は男女一体で、なおかつ組体操とのコンビネーションという思い切った構成になりました。

エイサーは単純に見えてなかなか複雑。覚えるのにそれは時間がかかりました。この短い期間で踊りをマスターできたのもひとえに実行委員たち頑張りのおかげです。改めて感謝します。

素早い動きで躍動的な「唐船<sup>とうしん</sup>ドーイ」と一転して太極拳を思わせるゆっくりしたリズムの「ミルクムナリ」の対比はいかがでしたか。またパーランカーや太鼓の迫力ある音。まるで地響きのような音でした。実は太鼓類は全て借り物。少しでも雨が降れば使えないところでした。修学旅行といい、体育大会といい、本当に天候に恵まれています。

大会の順位は以下のようになりました。

優勝	準優勝	準優勝	4位	5位
1 糸且	3 糸且	5 糸且	4 糸且	2 糸且
177点	134点	134点	132点	120点

先輩から受け継いだ「立中の伝統」というバトンをしっかりと後輩に手渡すことができ、生徒たちもほっとしています。ご観覧ありがとうございました。

さて、今度は期末試験(6/22~24)に向けてモードを切り替えなくてはなりません。その後には運動部の総体が控えています。両立させるのは大変ですが、ここは試練と心得て乗り越えてほしいです。



断トツで優勝の1組。何か秘策が…

## 夏休みのマスタープランを立てよう

気が早いと思うかもしれませんが、あと1カ月余りで夏休みが始まります。受験勉強を正式にスタートさせるタイミングでもあります。1学期は修学旅行や体育大会などで、今やっている3年生の勉強についていくのが精一杯でしょうが、期末テストが終われば膨大な量の復習(1~2年生)に着手しなければなりません。英語や数学のような積み重ね教科と違い、社会などは学年ごとの学習内容が全く違うのでやり直しが必要となります。

また、2学期のいろいろなイベントへの参加を希望する人は夏休みに準備しなければなりません。例えば合唱コンクールでのピアノ伴奏、文化発表会での英語スピーチ、有志ステージなどです。いいスタートが切れるよう、今からやりたいことをまとめ、夏休みの基本計画を立てましょう。